

【1】実践事例

【2】タイトル：鷗外・舞姫についての調査

【3】概要

- * 校内 Web サーバ上に、鷗外・舞姫関連の記事を掲載した Web ページの URL 集を上げておく
- * 『舞姫』の導入として、鷗外の生涯や文学的な位置・『舞姫』そのものの内容や成り立ちについて、生徒自身の手でまとめさせる
- * 課題プリントを配布し、その項目にそって Web を利用して調べることを指示する
- * 資料として使う場合、Web 上の記述が正しいかどうか検証する態度を養う

【4】キーワード：森鷗外、舞姫、Web 検索

【5】学校区分：高等学校 定時制 普通科

【6】学年：4 学年

【7】教科：国語

【8】学校名(URL)：千葉県立野田高等学校 (<http://www.noda-h.ed.jp/nodatei/>)

【9】授業者名：清水俊一

【10】授業実施期間(月日,時間)：平成 10 年 5 月 27 日～6 月 6 日 5 時間

【11】単元・題材名：『精選現代文』教育出版 単元 9 小説(三) 明治の文学 舞姫

【12】単元の目標

- * 近代文学の古典とも言える作品を読み、その優れた文学作品であることを知る。
- * 近代文学がその出発当初もっていた文語体に接し、その特質・魅力を知る。
- * 作品の展開をたどり、優れた構成の仕方をつかむ。
- * 作品の主題をとらえ、主人公の生き方に対して自分の意見を持つ。
- * 当時の作者・作品の背景等について調べ、明治の時代と人間について認識を深める。

【13】メディア活用の意義

文学作品を読む時は、その作品や作者についてある程度まとまった時間をとって講義するのが普通である。『舞姫』の場合も鷗外の文学史上の業績や処女小説としての位置づけ、作者の実体験とのからみなどを、生徒の興味を引くように話をしてきた。

一方、最近は Web ページコンテンツも充実してきており、鷗外などの有名な作家・作品についての情報も得やすくなってきている。小説教材の導入として、教師側から作

者や作品について解説することもいいだろうが、生徒自身の手で調べ発見するおもしろさを体験させることができると思う。もちろん、図書室等の資料を使って同様のことをすることはできるが、WWWのハイパーリンクの便利さと手軽さは生徒が親しみやすいものだろう。文字情報だけでなく画像や音も豊富に得られるので、生徒にとってはイメージもつかみやすいだろうと思う。

ただし、インターネット上で公開されているページが、自分にとって必要かつ十分なものであるかどうか、またその記述自体も正確なものであるかどうか、常に意識させておかないといけないと考える。ともすると通常の出版物と同じように見てしまい、その内容には間違いがないものと、生徒は思いがちである。

さらに、Webは単なるメディアの一つとして他のメディアを排除するものではないことにも気付かせたい。図書室の資料も併用することも学習活動の中に入れておきたい。

【14】メディア環境

a)使用機種：Mac LC520

b)稼動環境

- 1.DA128の専用線でインターネット接続
- 2.校内にUNIXサーバ(Web,mail,DNS,proxy etc.)
- 3.校内LAN

c)利用ソフト

- 1.Netscape Navigator

【15】単元の指導計画

指導計画(時間)	留意点
導入(5時間)	作者・作品について調べレポートさせる ストーリーを追いながら読む
読解(10時間)	
まとめ(1時間)	

【16】授業展開

学習活動・内容	留意点(活動への働きかけ・支援等)
導入 作業の説明・作業開始(1時間)	ただし、できるだけ作品の内容や作者に

調査作業・レポートのまとめ作業(4時間)	については触れないでおく
----------------------	--------------

【17】学習活動の実際

このクラスは概して集中力がなく私語も多くなりがち。真面目に話を聞いてノートをとる生徒も多いが、その知識の定着はおぼつかない。

一学年の時からコンピュータを扱わせており、日本語入力などはほとんど支障なくこなせる。Web 閲覧の仕方についても慣れている。

まず、授業者があらかじめインターネット上の各種検索エンジンを使って「鷗外」「舞姫」等のキーワードで検索をかけ、有益と思えるページの URL を集めておいた【20】参考資料を参照)。いきなり授業の中で生徒それぞれに検索させた場合、ヒット数が多すぎて焦点が絞れなくなることが考えられたのと、不必要な情報が入り込むのを防ぐためである。その URL 集は校内 Web サーバに置き、生徒用のコンピュータから閲覧できるようにしておいた。

次に、URL 集から得られる情報をもとに、『舞姫』の作品背景やあらすじ、作者についての知識をまとめさせるためのレポートを用意した。ただし、これらのページからだけでは得られない情報をまとめさせる問題も一部含んでおいた。インターネットからすべてが得られるとは限らないことを気づかせるためである。【20】参考資料を参照)この中の「鷗外の年譜」については三十歳台までのものしか、当時インターネット上では見つからなかった。

作業を開始する。中には Web を閲覧することに慣れている生徒もいるが、ほとんどページを眺めているだけで「読む」という作業はしていなかったものが多いことに気付く。レポートを書くには詳しく読まなければならないので辛そうだ。

生徒は読み取った中から、レポートの課題に適するものを書き写していく。

URL 集の中のページで、『舞姫』の発表年を一八九〇年としたものと一八九一年としたものがあった。生徒が書くレポートにもこれを問う問題を入れておいたが、生徒はここで大いに迷ったようだ。「どうしたらよいか」と質問されたがわざと答えずにおいたら、一人が図書室に行って確かめると言い出し、結局皆がそれに従うことになった。



また、前述のように「鷗外の年譜」についても没年までの完璧なものは図書室の資料を使うことになった。

そのまま Web 上の検索エンジンを使って検索しようとしていた生徒がいたが、作業時間が制限されているために完遂しなかった。

中に、ブラウザに付属するメールクライアントソフトを使って、URL 集の作者に問い合わせのメールを出した生徒がいた。残念ながら本校ではきちんとユーザーIDでログインしないとメールを出せない仕掛けになっているので、そのメールはエラーになって戻ってきた(このメールは別に「メールのお作法クイズ」【20】参考資料参照)というペ

ージで、メール利用上のマナーについての例として使わせてもらっている)。

【18】授業の成果(生徒の反応、メディア活用の効果等)

普通の講義形式の授業だと集中力が続かないクラスであるが、この作業中は皆意欲的に取り組んでいた。課題の解答を探するという作業がまるでクイズのように受け止められたのだろうか(Webを見て回るというのはまさしくクイズ・ゲーム感覚に近いかもしれない) 同時に知識も定着できたようだ。

定期試験の問題の中に作者と作品についての問いを設けたが、その小問の正答率は六一・八%だった。ちなみにその試験全体の平均点は五六・四点であった。少なくとも、時間はかかったが教師側の解説だけですますよりは効果が見られたと考える。資料を検証する必要性も学んでくれたようだ。

【19】ワンポイントアドバイス(今後の課題等)

通常の研究においても、文献の信頼性や裏づけを検証するのは第一歩である。生徒たちは現在でも多くの情報に取り囲まれており、これから益々氾濫する情報と付き合っていかなければならない。それらの情報の中からいかにして自分に必要な情報を選び取ることができるか、その技能は今から養っておかなければならないと思うし、それがいわゆる「情報活用能力」の基礎になると思う。

決してインターネットからだけ情報が得られるわけではなく、印刷資料等も同時に利用していく姿勢も大事である。その時々に応じた最適な情報源を求める態度が求められる。

生徒の主体的な学習を引き出すために、図書室の資料を使わせてこの種のレポートを書かせる作業はよくやられることだ。しかし、図書室にある資料は冊数も限られ、同時に複数の生徒で利用することはできない。複数のメディアを併用することで授業時間中、生徒個々に公平に資料を参照させることができる。

前述のように、メールを使って確かめるという手段は、次の段階のインターネットの利用の可能性を示唆するものだと思う。Web ページを閲覧するだけでなく、学校内外の人に積極的に問いかけ、議論し、コミュニケーションしていくというのも、国語の授業として考えられる展開だろう。ただし、その前に生徒がメールを使える環境を整えなければならぬし、実施にあたっては事前に外部の協力者と得、打合わせをしておかないと迷惑をかけることにもなるし、期待した効果がも得られないだろう。

URL 集は生徒から見られるように校内 Web サーバに、それぞれのページにリンクする形にして置いたが、サーバがなくても、たいていの高校のコンピュータ室はサーバ・クライアント形式でファイルを共有できるようになっているだろうから、その機能を使って生徒に見せればいい。

URL 集をあらかじめ作っておかなくても、いきなり Web 上の検索エンジンなどで検索させることも考えたが、キーワードを絞らないとヒット数が多くなりすぎることや、いわゆるリンク切れのページもあったり、関係の薄いページもヒットしたりするので効率が悪い。限られた時間内で作業させるには、こういったホワイトリスト形式が有効である。

校内ネットワーク上に Proxy キャッシュサーバを運用していれば、あらかじめ URL 集の全てのデータを閲覧してデータをキャッシュに溜めておき、授業中に閲覧させるのにストレスを少なくすることもできる。

インターネットに、生徒のマシンから接続できない場合は、URL の先のページデータをあらかじめサーバに保存しておき、そのファイルを共有する形で実施することもできる。ただし通常インターネットにページを公開している人は、このようにいったんローカルディスクにデータを保存して使われることを想定していない人もいるので、授業が終了したらすぐ削除するとか、ページの作者にそういう使い方の許諾を得ておかないと、著作権に関わることもあるので注意が必要である。

【20】参考資料・参考 URL など(協力者,協力団体含む)

- * 鷗外・舞姫関連 URL <http://www.noda-h.ed.jp/nodatei/class/ogai.html>

この URL は平成 10 年 5 月、授業で使ったものを記録として載せているものです。現在 URL が変更になるなど、閲覧できないページがあるかもしれません。

- * 「文学散歩」(<http://www.asahi-net.or.jp/~ci8kwkmt/kazu.htm>)若本和秀
若本さんご自身でベルリンまでいかれて撮影された写真があります。
- * 「メールのお作法クイズ」(<http://www.noda-h.ed.jp/howtomail/node8.html>)
- * 課題プリント(実際は B4 版横置き・袋とじて印刷)

森鷗外 および 『舞姫』について インターネットで調べてみよう

鷗外に関連した施設はどこにある？(場所と施設名)

「舞姫」を発表したのは いつ？()

どこに？()

鷗外が何歳のとき？()

「舞姫」は鷗外の何番目の小説？

「舞姫」の舞台となった都市は？

「舞姫」の主な登場人物名とその関係

「舞姫」について、発表当初に否定的な評論を加えた人がいる。その人の名前は？

その人はどういう点で「舞姫」はだめだと言っていたか。

